



## キッチン シングルレバー 混合水栓

機種名	一般地用	日本水道協会承認番号	寒冷地用	日本水道協会承認番号
ユーロプラス	33812	K-3518	33814	寒K-3652
ユーロウィング	33916	K-3518	33915	寒K-3652
ユーロディスク	33875	K-3437	33875K	寒K-4153
	33834	K-3437	33834K	寒K-4153

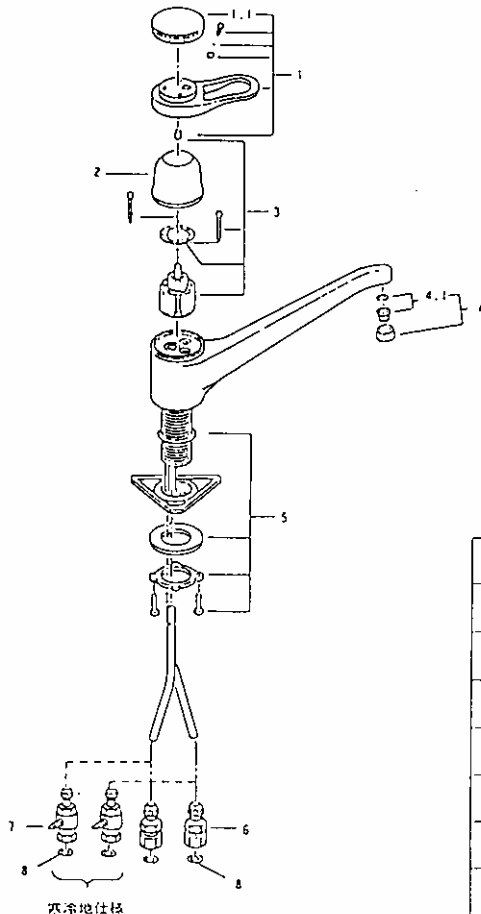
### 施工説明書

### 施工業者様用

- 施工の前に、この「施工説明書」をよくお読みの上、正しく施工してください。
- 施工完了後、試験運転を行い異常がないことを確認するとともに、「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。  
また、この施工説明書は、「取扱説明書」と共にお客様で保管頂くように依頼してください。

#### 外観図と付属品

\*品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。



部品表

図番	名称	図番	名称
1	レバーセット	6	逆止弁 (一般仕様)
1.1	レバーキャップ	7	逆止弁 (寒冷地仕様)
2	カートリッジカバー	8	パッキン
3	カートリッジ		
4	アウザーセット		
4.1	空気器		
5	締付セット		

## ●安全上のご注意

- ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した△注意は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 表示と意味は次のようになっています。

△注意 …… 「この指示を無視して誤った取扱いをすると、障害または、物的損害が発生する可能性があることを示しています。」

### ■記号の説明

⊘ …… 「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）

❗ …… 「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

## △注意



**湯水を逆配管しない。**

**左湯 右水**

湯水を逆に配管しないでください。  
※水を出そうとして、湯が出てやけどをすることがあります。



**給湯に蒸気を使わない。**

給湯に蒸気を使用しないでください。  
※高温の蒸気によりやけどをするおそれがあります。  
器具破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。



**点検窓を設ける。**

逆止弁部分を点検出来るように必ず点検窓を設けてください。  
※漏水等の発見が遅れ家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。



**止水栓を設置する。**

必ず止水栓を設置してください。  
※水量の調節ができないと通常の使用が出来ず、温度調節時、突然高温になりやけどをするおそれがあります。



**施工完了後の確認**

施工完了後は、配管接続部分及び水栓から、水漏れのないこと、レバーが閉じていることを確認してください。  
※漏水で家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。



**寒冷地の水抜き  
（寒冷地用）**

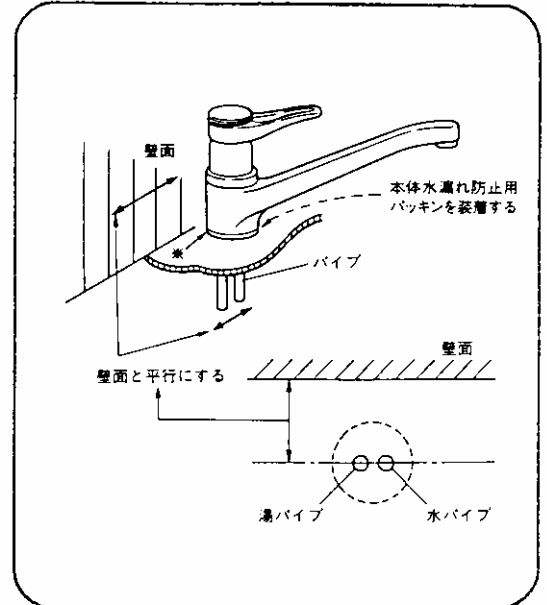
お客様に引き渡す迄は必ず元栓を閉じて、内部の水を抜いておいてください。  
※特に冬季は凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

# ● 施工

## 1. 配管の洗浄

工事の時は、配管内にゴミや鉄クズ等がたまっていますので、取付前に配管のみで水を流すか或は他の場所で水を流すか等のことを行い、十分にゴミをとり除いてください。

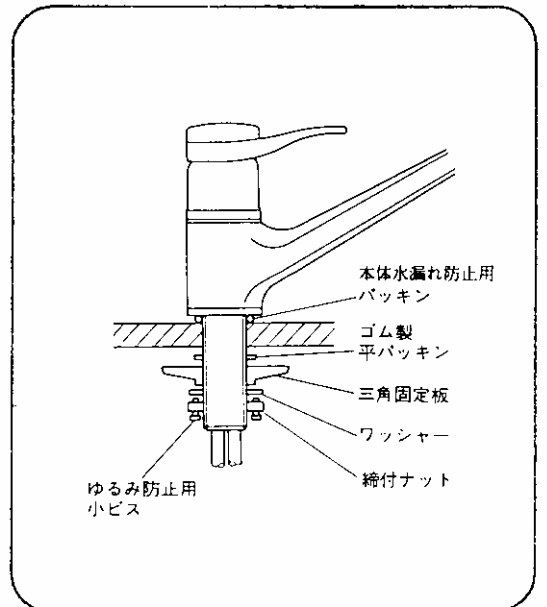
図1 注) パイプ方向に注意!!



## 2. 本体の取付

- ① 本体水漏れ防止用パッキンの装着 (図1・2参照)  
 本体取付前に本体締付部品を収納している小袋から本体水漏れ防止用のパッキンを取り出し、本体に装着してください。
- ② 本体銅管が壁面に対し平行。(図1参照)  
 湯水の配管が図1の通り、壁面(正面)、と平行になるように、本体をシンクに固定してください。※印のリングの切れ目が後面となります。
- ③ 本体締付ナットを締め付ける。(図2参照)  
 ②が完了後、図2の通りゴム製平パッキン、三角固定板、ワッシャー、締付ナットの順でナットを締め付けてください。  
 ● 締め付けナットの小ビスはゆるみ防止用です。  
 ゆるみ防止のため小ビスもしっかり締め付けてください。

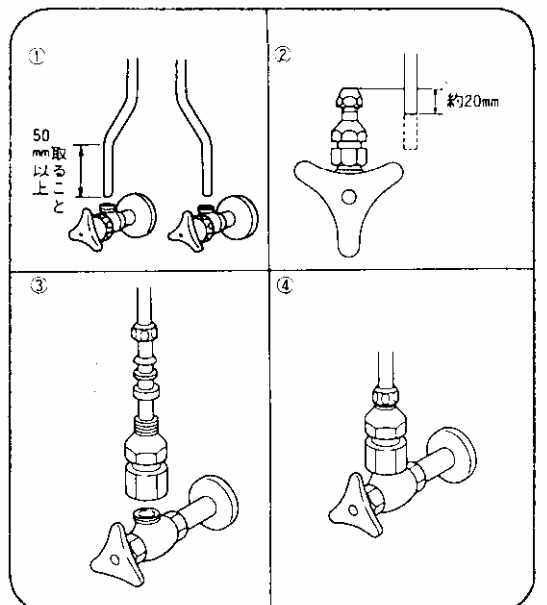
図2



## 3. 銅パイプ、逆止弁、止水栓の連結 (図3参照)

- ① 給水・給湯パイプを止水栓の取り出し芯に合うように曲げます。この時、出来るだけ直管部分が長くなるようにしてください。曲げる際には、両手でパイプが折れないように曲げてください。
- ② 逆止弁を止水栓に仮固定して、給水・給湯パイプの必要長さをあたり切断します。  
 給水栓の給水パイプは長めに設定してありますので施工現場に合わせて必要な長さにパイプカッターで切断してください。この時逆止弁本体への差込代を約20mm確保してください。
- ③ 給水・給湯パイプに袋ナット、テーパリング、座金、ゴムパッキンを順に入れて逆止弁を差し込み、止水栓に固定します。
- ④ 袋ナットを十分締め付けてください。

図3



## ●施工完了後の確認

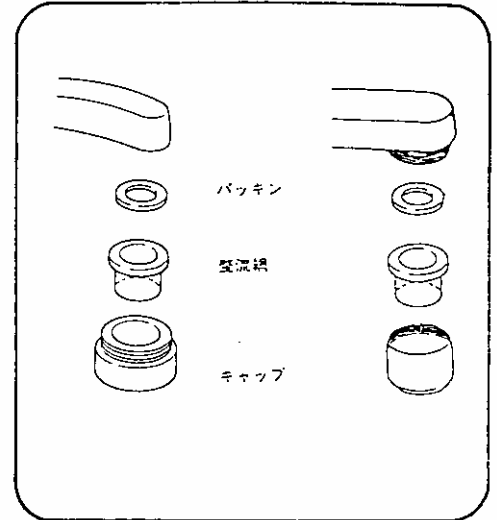
### 1. 施工の再確認

- 全ての施工完了後、再度接続部の締め付けを確実に行ってください。
- 配管接続部及び水栓から水漏れがないか再度確認してください。

### 2. 整流器のゴミづまり除去方法 (図4)

- (1)操作ハンドルレバーを止水状態にしてください。
- (2)整流器のキャップを左回しに手でゆるめてください。
- (3)整流網のゴミを取り除いてください。  
 「新品時はシールテープ、グリース等が付着していることがあります。よく洗い流してください。」

図4 整流器



### 3. 水量の調整 (図5)

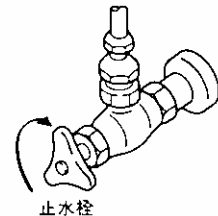
水の圧力、湯の圧力が全国マチマチですので、お使いいただく現場で適温が得られるよう、微調整をしてください。

#### ※水側圧力が等しい場合

水側止水栓を絞って水量を湯量し同一或は1.5倍位になる程度に調整してください。温度の調整範囲が広くなり快適にご使用いただけます。

図5

水側の止水栓、しばって調整



## ●寒冷地の水抜き (寒冷地用)

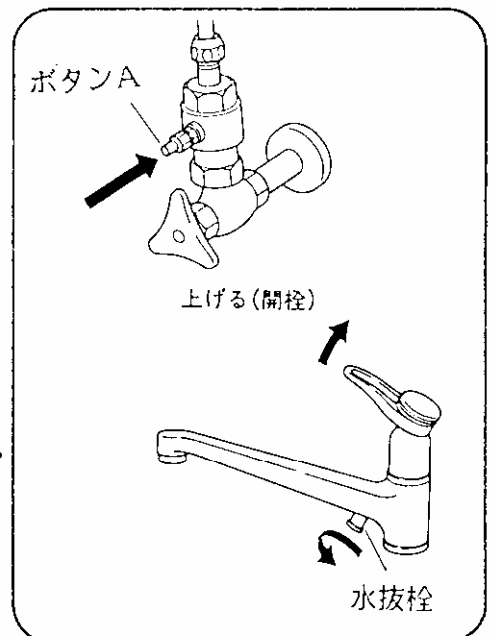
### ■設置条件

不凍栓等を設置した寒冷地使用配管設備でないと使用できません。

### ■水抜き方法

- ①給水栓を閉じ、不凍栓を開放してください。
- ②水栓のハンドルレバーを湯水の中央位置で開栓状態としてください。
- ③吐水パイプ下部 (33814・33915)又は、本体横部(33875K?33834K)の水抜き栓を開栓してください。水抜き後は必ず閉栓してください。
- ④給水・給湯パイプとの連結部分にある逆止弁のボタンAを押し込んで、水が抜けるように逆止弁を開放してください。尚、ボタンAは再通水すると自動的に元の状態に復帰します。

注) 水抜けが悪い場合は、吐水口の整流器を取り外してください。



## グローエジャパン株式会社

本 社 〒160 東京都新宿区大京町24番地 住友外苑ビル  
 TEL 03-5269-9688 FAX 03-5269-9690  
 大阪営業所 〒550 大阪市西区北堀江1-5-2 四ツ橋新興産ビル  
 TEL 06-533-3015 FAX 06-533-3460